

関東大会_審判注意事項

- ◆本大会ルールは、以下に記した事項以外は日本空手協会の試合規定・審判規定、小中全国大会の規定に準じます。
- ◆各コートは、ベスト8まで確定した記録表を提出して下さい。
- ◆全国大会では着用道衣のペナルティーがあります（試合規則16条）。この県大会にてコート毎、注意喚起をお願いします。※ 留意点に追記

形試合 個人戦

- ・小・中学生
 - 予選 指定形（平安初段～鉄騎初段）での紅白戦
 - 引き分けの場合、紅白戦は再試合(他の形)で勝敗を決める（試合規約第38条1）
 - 小学生順位決定戦は、拔塞大・観空大・燕飛・慈恩・十手・半月・岩鶴の中から選択する。
 - 8点基準で、主審1名・副審6名の7名審判員で構成する。
 - 同点の場合、最低点を加え順位を決める。さらに同点の場合、最高点を加え順位を決める。
 - それでも同点の場合、「同じ形」で再試合を行う。再試合が同点の場合は別の形で行う。
- ・高校・一般
 - 予選 指定形（平安二段～鉄騎初段）での紅白戦
 - 一般男子は、順位決定戦前のベスト16で選定形（拔塞大・観空大・燕飛・慈恩）での紅白戦
 - 引き分けの場合、紅白戦は再試合(別の形)で勝敗を決める（試合規約第38条1）
 - 順位決定戦は、指定形を除く得意形（試合規約第34条3④）。
 - 8点基準で、主審1名・副審6名の7名審判員で構成する。
 - 同点の場合、同じ形で再試合を行う。
 - さらに同点の場合、最低点を加え順位を決める。なおも同点の場合、最高点を加え順位を決める。
 - それでも同点の場合、「別の形」で再試合を行う（試合規約第38条2）。
 - ただし、4位以下の同点では再試合は行わない。例) 4位が同点だった場合→4位、4位、6位、7位、8位とする。

団体戦 個人戦の順位決定戦に準ずる。ただし指定形も可とする。

その他 基本から外れたオーバーアクションは、減点の対象または判定材料にする。
 息吹き、開始線についても同様に判断する。
 形名の通告・復唱を着実にを行う。副審も注意する。
 順位決定戦で、前半に演武した点数が抑えられ、後半に出る選手が有利になる場合が多いので、配点に注意する。
 偏った観点で判断せず総合的に判定する。

組手試合 個人戦

- ・小学生 試合時間1分30秒。準々決勝（ベスト8）より2分。
引き分けの場合、再試合は先取り勝負で勝者を定める（試合規約第23条2）。

- ・中高校・一般 試合時間2分間
引き分けの場合、再試合は先取り勝負で勝者を定める。
3位決定戦は行わない。

- 団体戦 勝者方式（勝者の数）によってチームの勝敗を決する。
（第1位）一本勝ち（第2位）合わせ一本勝ち（第3位）判定勝ちで、その数が多い方を勝者とする。
引き分けの場合、代表者決定戦を行い勝者を定める。代表決定戦は、個人戦に準ずる（試合規約第20条5）。
3位決定戦を行う。

- 反則 少年少女の組手試合では、**上段への接触は、全てペナルティーとする。**（師範会通達2024.3.22）
少年少女では、倒れた相手を蹴る行為を禁止する。蹴った場合は反則とする（審判規約、少年少女自由組手試合要項7①）。
加撃により負傷した場合、審判員のみで判断せずドクターに診断してもらう。
反則をした選手を座らせる場合、コート中央を向いて座らせる。

- その他 主審はC級以上の審判員を配置する。
掴み合った時などの「止め」を早めにかける。
「注意」（反則・場外・無防備）を判定の材料にする（試合規約第22条3.4）
原則、副審3本の技は取る。取らない場合は、協議して説明する。
「注意」（反則・場外・無防備）を判定の材料にする（試合規約第22条3.4）
「やめ」の後も選手が動きを止めるまで目を離さない（特に主審）。
2度反則負けの選手、2度反則勝ちの選手は、以後の組手試合に出場できない（試合規約24条3、少年少女自由組手試合要項7②）
反則負けの選手は赤テープを、反則勝ちの選手は青色テープを、上腕袖部に巻く（同上）※コート長および審判員が実行・確認する

※少年少女の区分けは、小学生・中学生までの男子・女子をいう（審判規約第40条1）